



人間と人間の相互作用のないもの

2022年度 国際言語文化研究所連続講座

10月7日・14日・21日・28日(毎週金曜日) 17:00～19:00

会場：オンライン開催 主催：立命館大学国際言語文化研究所

※9月15日時点で本学BCPレベルが2以上のため、オンライン開催のみとなりました。

参加無料

事前
予約不要

手話通訳
予定

第1回
10月7日

「台湾の「妖怪」と「幽霊」 —文学と歴史、アイデンティティをめぐる—

コーディネーター・司会：三須祐介（立命館大学）

発表1：三須祐介（立命館大学）

「台湾現代文学における「鬼」の形象—陳思宏『鬼地方』を手がかりに」

発表2：倉本知明（文藻外語大学）

「台湾現代文学における「魔神仔」の形象—怪奇譚が生み出すナショナル・アイデンティティ」

コメンテーター：菊地暁（京都大学）

第3回
10月21日

「人間と人間でないもの ヴァナキュラーな世界観と物語」

コーディネーター・司会：安保寛尚（立命館大学）

発表1：仁平ふくみ（京都産業大学）

「メキシコの農村：ファン・ルフォの「死者が／を語る」技法」

発表2：安保寛尚（立命館大学）

「キューバの密林：リディア・カブレラと神話／民話、驚異的現実の交差点」

コメンテーター：吉田栄人（東北大学）

第2回
10月14日

「歴史と小説のポストヒューマニティ」

コーディネーター・司会：吉田恭子（立命館大学）

発表1：渡邊英理（大阪大学）

「中上健次のポストヒューマン思想」

発表2：竹峰義和（東京大学）

「歴史のポストヒューマニティ～ベンヤミンの思想から」

コメンテーター：崎山政毅（立命館大学）

第4回
10月28日

「人と病—スティグマ／ヘイト・ジェンダー・医療への注目から」

コーディネーター：小川真和子（立命館大学）

発表1：水島新太郎（立命館大学）

「男性と病—エイズウイルスのもたらした男性差別」

発表2：山本めゆ（立命館大学）

「敗戦史のなかの検疫—女性への嫌悪と警戒を読み解く」

コメンテーター・司会：薩摩真介（立命館大学）

参加方法

本講座はオンライン開催のみとなりましたので、事前のお申込みは不要です。
講演当日の午後、下記リンク先にzoomのミーティング・ポイントをお知らせします。
<http://www.ritsumei.ac.jp/research/iilcs/event/>



立命館大学
国際言語文化研究所

お問合せ先

立命館大学国際言語文化研究所 〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
TEL：075-465-8164 E-mail：genbun@st.ritsumei.ac.jp
URL：http://www.ritsumei.ac.jp/research/iilcs/

ノ ン ヒ ュ ー マ ン

人間と人間でないものの相互作用

今私たちは、世界的な感染症や気候変動、そして軍事的脅威に怯えている。その引き金になっているのは、人間中心主義や権力者による帝国の物語の解釈である。人類が協力して向き合うべき課題であるが、一方では差別や分断が露呈し、他方では自己正当化に利用される公的な歴史の物語によって、異なる声が封殺されるさまが目撃されている。「ポストヒューマン」時代に、人間は自然や「他者」とどのように共存することができるのだろうか。今年度の連続講座では、歴史、政治・社会、思想、文学のさまざまな事例における人間と人間でないものとの関係の考察を通して、その手がかりを得ることをねらいとする。

第1回 [10月7日]

「台湾の「妖怪」と「幽霊」

——文学と歴史、アイデンティティをめぐる——

近年、台湾においては、ヴァナキュラーな信仰と結びついた「鬼（幽霊）」や「妖怪」の伝承がさまざまな形で表象されている。本講座では、それらが「言えない秘密」として官製の歴史を相対化しうる存在であったことを踏まえ、アイデンティティの問題とも関わりながら、どのように文芸作品に反映されているのかを考える。

第2回 [10月14日]

「歴史と小説のポストヒューマニティ」

人間の営みを語る歴史と小説において「脱人間中心主義／人間後」の世界はどのように想像されうるのか。進歩・成長のはての瓦礫を思い描く哲学がもたらす活路とは。小説家・中上健次（1946-1992）と批評家・ヴァルター・ベンヤミン（1892-1940）の思想に見えるポストヒューマニティを照らし合わせることで、人間後を描く人間の想像力の射程を探る。

第3回 [10月21日]

「人間と人間でないもののヴァナキュラーな世界観と物語」

ラテンアメリカには、生者、死者、動物、植物、神々の間に交感・交流・相互作用があると信じる世界観がある。その口承文化の伝統を素材に、メキシコとキューバの作家が編み上げた物語を読み解く。そしてマヤ文学・文化人類学研究者のコメンテーターと共に、ヴァナキュラー文学研究の可能性を模索する。

第4回 [10月28日]

「人と病——スティグマ／ヘイト・ジェンダー・医療への注目から」

病やそれに対処しようとする多様な営みは、ときに人びとを分断し、ときに差別の可視化や対抗的コミュニティの形成に寄与する。本セッションでは、スティグマやヘイト、ジェンダー、医療や公衆衛生等への注目を通じて、人と病との関係を再検討する。